



福島のために
お客さまのために
そして未来を育むために

プレスリリース



ビッグデータおよび AI 活用へ向けた 組織体制構築への取組みについて

福島銀行（取締役社長 加藤 容啓）は、SBIホールディングス株式会社（代表取締役社長 北尾 吉孝、以下「SBIホールディングス」）より、AI活用に関する知見・技術・リソースの提供を受け、AI活用自走化へ向けた取組みを行っております。

今回は、実務におけるAI活用、AI人材の育成について一定の効果が出来まいりましたのでご報告いたします。

1. 個人向けローン実務へのAI活用

当行は、SBIホールディングスとの資本業務提携を機に、昨年度よりSBIホールディングスの戦略的資本業務提携先であるDataRobot,Inc.（本社：マサチューセッツ州ボストン、CEO：Dan Wright、以下「DataRobot社」）が提供するAI Cloudプラットフォーム『DataRobot』を実務に導入しております。

その『DataRobot』を活用し、顧客動向のデータ分析を行った結果、個人向けローンにおいてこれまで発見できなかった顧客の潜在的ニーズを把握することができ、最適な商品のご提案が可能となりました。それにより、個人向けローンの電話によるセールスの成約率が向上しております。

今後は、個人向けローンだけでなく、法人を含め様々な資金ニーズの発掘や、行内の業務効率化へAI活用の範囲を広げることにより、更なる地方創生へ向けた経営支援力の強化および銀行全体の業務生産性の向上へと取り組んでまいります。

2. SBIホールディングスへの出向

本年4月より、当行社員をSBIホールディングス社長室ビッグデータ担当へ出向させ、「市民データサイエンティスト（AIプラットフォームやソリューションを用いることによりデータ分析ができる人材）」にすべく、銀行業務内のデータ分析・活用に関する知識・ノウハウを取得させております。

今後は、新規組織として発足した「DX推進室」と連携させ、当行の更なるDX化を牽引できる人材を育成してまいります。

3. 人材育成を目的とした社員参加型研修の開催

本年6月17日、当行本部において、DataRobot社、SBIホールディングスと共同で、行員向けのAI勉強会や、AIで解決可能な銀行内の課題をディスカッションする課題創出ワークショップを実施いたしました。

若手行員から本部管理職まで幅広いキャリアの行員が参加し、銀行業務におけるAI活用事例の共有や、AIを用いた課題解決へ向けたアイデアの創出など、銀行全体のAI活用へ向けた取組みの第一歩となりました。

今後とも、このような全行的なAI活用に対する取組みを継続的に行い、更なるAI活用の拡充と啓蒙に取り組んでまいります。



取締役社長 加藤 容啓よりコメント

「社員参加型研修を通し、AIへの知見を深めるとともに、銀行全体の企画力の向上に繋がると期待しています。先の時代を見据え、これからもDXに強い銀行を目指していきたいと思います。」



当行では、今後ともお客さまに寄り添ったサービスの提供と更なる利便性の向上を図り、中期経営計画「ふくぎん 福島創生プロジェクト」のもと、地域との新たな価値の創造に取り組んでまいります。

以上

お問合せ先
福島銀行 営業企画部
TEL 0120-76-2940

報道機関のお問合せ先
総合企画部 経営企画課 広報室 金成 TEL 024-525-2973